

氏名	竹山博泰
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第1634号
学位授与の日付	昭和61年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	気道細胞反応からみた呼吸器疾患の研究 第1編 気管支肺胞洗浄法による気管支喘息の病態に関する研究 第2編 気管支肺胞洗浄法による炎症性・肉芽腫性疾患の病態に関する研究
論文審査委員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 粟井通泰

学位論文内容の要旨

第1編 気管支喘息症例について、初めて気管支肺胞洗浄法（Bronchoalveolar lavage, BAL）による細胞学的検索を行なった。健康肺13例の出現細胞の平均は、マクロファージ89.6％、リンパ球9.7％、好中球0.7％、好酸球0.4％、好塩基性細胞0％であった。気管支喘息症例40例では、マクロファージ54.4％、リンパ球12.6％、好中球11.8％、好酸球21.2％、好塩基性細胞0.1％であり、健康肺と比べ好酸球の著増及び好中球の増加傾向がみられた。このうち好酸球はアトピー型において、好中球は難治性喘息において多く増加がみられた。

第2編 炎症性・肉芽腫性呼吸器疾患についてBALを実施し、細胞学的検索を行なった。過敏性肺臓炎では、洗浄液中のリンパ球の著増が特徴的で、健康人に比しTリンパ球の増加を認めた。サルコイドーシスにおいても同様の傾向を認めた。慢性気管支炎では、洗浄液中に好中球の増加を認めた。細気管支炎では、好中球の著増が特徴的であった。この組織所見は細気管支壁および周囲への単核球の浸潤であった。実験的過敏性肺臓炎では、単核球の胞隔への浸潤の程度と、BALでのリンパ球の出現率が一致していた。

論文審査の結果の要旨

本研究は各種呼吸器疾患患者の気道細胞反応についての検討であり、気管支肺胞洗浄法によると気管支喘息症例については好酸球と好中球の増加が認められ、過敏性肺臓炎ではリンパ球の著増が特徴的であり、サルコイドーシスにおいても同様の結果であった。これらの所

見は各疾患の発症および修復機序を反映しているものと考えられ有意義な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。